北海道足寄郵便局 52.10.24 足寄町議会

とかち新聞
主筆 松山明
(発行所)北海道足寄郡足寄町 とかち新聞社 電話③2551番
(毎月5の日発行) 1ヵ月300円 1ヵ年前納の場合3,000円

農業の経営基盤に弱さ

足寄町議会 常任委員会の調査報告から

足寄町議会の第三回定例会で各常任委員から所管事務調査の報告がおこなわれました。

産業経済委員会（神谷三郎委員長）では八月から九月にかけて十二日間にわたって調査した結果は

一、本町の農業経営の実態は、面積は管内平均の一六ヘクタール、本別町の一四、五ヘクタール、陸別町の一六、五ヘクタールに対して足寄農協関係では一一、五ヘクタールであり、このことが経営基盤の弱さにつながっている。足寄農協と管内農協平均をみると、販売販売高で五三％、生産資材販売高で八四％、金融金で四三％、出資金で五三％、自己資本で五八％、貸付金で二〇九％となっている。こんご畜産の拡大は欠かせないので土地の確立により農地安定作物の導入と有機質肥料の投入は必要である。また酪農経営についても乳量の増大、賃貸の向上、肉質の改善の観点から後継者の導入、育成センター、大規模草地牧場、ウエハーの利用が図まれる。その後、生産農道の整備、水道の安備に行政配慮が必要である

二、北洋地区の開拓も進次すすんできたが、急傾斜地はウエハー原料採草地として利用が難しいので放牧地として使うことを検討すべきで、特に庄内地域は水道導入の計画があるので併せて移転入植についても考える必要がある

三、林業振興について

◎こんごの民有林の問題点

イ、最近は獣害障害の白ろう病が発増しており、時間制限、手オノ、鋸などの使用で造林費用が倍増する傾向にあり、非補助事業における除伐、下刈り等についての補助制度の拡充を検討すべきである

ロ、本町の人工造林面積一一、三〇二ヘクタールを有するが間伐事業は遅延で、保育造林の手入れ、作業道の開設などの経費が増大となり更施されない原因となっている。間伐の現状はカラマツ十五年生で一ヘクタール約六千九百円の赤字といわれている

ハ、カラマツ加工は、中津津と森茂別の森林組合の実態を調査したが、製品としては坪角、ダンネーゼ、パレットこん包材、パルプ建築材など多様だが、いかにしてコストを下げるかに苦慮しており、やはり機械設備の近代化と技術者の育成がが必要で本町は早急に小二次林業構造改善事業の計画を樹立して確定をうけるよう森林組合と協議して積極的にとりくむべきである

ニ、山菜加工については未だに黒字にならないが、原料確保対策とともに消費者のし好の変化に対応する製品の開発と施設の整備が必要と考えるので、町も指導と充分協議すべきである

◎町有林事業について

現在、人工林面積は三、〇〇三ヘクタールとなった。うち二、八〇二ヘクタールが幼令林で、保育、間伐管理が重要で、除伐、技打ち、つるきりを実施中だが充分とはいえない特に間伐作業がおくれ、間伐割分は一、一二〇ヘクタールが見込まれ年間一八〇～二七〇ヘクタールと莫大な費用が出てくる小径木利用施設の早期設置が必要である。天然林の伐採は皆伐方式をできるだけ押え択伐方式により為伐を押えるようつとめるべきである。林道についてはこんごは作業道の開設を重点とすべきと考える

四、商工事業振興対策

町商工会との懇談で、従業員持家の土地取得に配慮町特別融資資金の増額、地場産業の積極的な育成指導自衛隊員給食等の誘致、警察出所への強化、大集会場の建設、北区踏切の改善

り、立地条件にあった地場産業の育成につとめるべきである

ハ、観光資源を活かし、観光客の足止め的対策を講ずべきである

五、農林業振興対策

イ、育成面では地域の農外作業（老人の仕事）として取り入れるよう指導すべきである

ロ、販売面では、規格に合った育成販売をすべきで価格設定は商売的感覚を取り入れ、当初の目的どおり

種化木の供給をもとに、草花、高山植物などの販売国転球の早いものも取り入れるべきである

六、太陽事業の現状について

現在、生産過剰、輸入などによる厳しい流通状態にあるが、こんご町の木炭事業は赤字の解消、経営員（習技者）の問題など、委譲体制を早急にととのえる必要がある。体制づくりができた時点で公社、民間影響にしても目的の本炭企業は残るものと思われる

東小と西小の 区域変更のその後

文教厚生委員会（香川博厚委員長）でも八月から九月にかけて四日間にわたり調査した結果は

一、西小学校、東小学校の管理運営については、適正規模、学力向上を目的に通学区域の変更を実施し、具体的な教育成果はまだあらわれてきていないようだが、西小学校においてはグラウンド、体育館の使用などの面では成果があらわれている。また、学区変更、建物増築などにおいての学校管理運営、まちには学力向上の面での学校側の熱心な指導と努力のあとがみられ、校下父兄の理解と協力も日に日にたかまりつつある。このような現実をふまえ、教育の将来を充分見通したなかで計画どおり校舎の早期完成と新の高図都市にふさわしい環境整備をすすめ当初の目標どおりの学力向上と教育成果をあげるためさらに一段と努力を傾注すべきで、こんごの執行にあたっては、つぎの点を充分留意され検討を望む

①児童の通学にあたっては、交通条件を充分考慮し児童の交通安全、健康保持などを考え下愛冠に待合室交通標識などの設置および交通指導をおこなうべきである

②学校新築にあたっての備品、教材、教具の購入については年次計画を明確にするとともに、学校側との具体的協議を深め、早期執行を望む

③環境整備については、業務上または管理のうえからも早期整備を要求される

④児童の危険をともなう場所のフェンスその他の安全対策は特に重要し、危険防止と施設の充実が必要である

⑤東小新校舎の視聴覚教室の床と壁において管理、美観上好ましくない点がみられるので早急なる補修が必要である

二、特別養護老人ホームの管理運営について

①防災体制を再検討し、早急にその計画を樹てるべきである

②施設、設備の改善をし寝母の労働条件を緩和し、入所者との対話、助言に要する時間を多くもつことが望ましい

観預委員会（金山慶委員長）では、一部事務組合と組織する町との関係について四日間にわたって糸市町や道庁を調査した結果は、消防や衛生関係の事務組合は全く別の法人格を有した団体なので、本町では負担金予算などを提出の場合に審議するものとしました。

建設委員会（高橋義委員長）では、三日間にわたって町内の建設、水道工事状況を調査した結果、良好に執行されているとしました

明るい見通し 井手木材の再建

網路地方林利所帯広支部では陸別町の井手木材工業株式会社の会社更生法申請にもとずいて、十三日午前十時すぎに弁護士定之支部長をはじめ手島弘、鈴木雄雄裁判官に熊谷藤一書記官らが来町して、現地調査にあたりました。

はじめに保全管理人の塩田宗雄氏の案内で同工場や作業所をみてまわり、井手社長にもあい、従業員代表二名から現在の給与やこんごの考え方をきき、商工会で金沢会長から町内の動向をきき、町役場で杉田町長や竹内議長から町としての意見をきいて午後三時ごろ一行は解帯しました。

町内の名簿とも七十余名の従業員の生活を守り、これ以上の過疎化を防ぐためにぜひ更生手続きの開始を要請しましたが、裁判所側では保産したというのでどこの場合でも従業員をへらして経ヶとやっているのに対して、井手木材の現状は平常どおりの操業ぶりには感心していたようですが、これには町内の関係者が協力して同工場の原木はきらさないようにと支援体制を布いていることで、こうした町の空気から再建のための民生法の適用は十一月にも決定されるのではないかとの明るい見通しとなっているようです。

人事の季節 三町の場合は

九月の定例町議会では、各町ともに人事案件が上程されるのが恒例でまきに〃人事の秋〃となっています

そのなかでもっとも注目されるのは四年の任期満了によって後任の任命について町長が議会の同意を求めて町長が議会の同意を求めるべきです。

本別町の場合は石山美子さんの再任でしたが、ただ一人の婦人委員ということもあって異議なく同意、足寄町では新委率雄氏の再任で、かつて農民同盟委員長だった唯一の革新派でもあるのでバランスを保つて同意となったものの、陸別町の平林英治氏と森岡晴氏との再任提案に対しては、革新系議員から異論が出て、平林氏には五名の反対、四岡氏には六名の反対があって同意となりました。

これは陸別政区労（正垣徳雄議長）でかねてから理事者や教育委員会に対して教育委員の五人全員が保守的な人物ばかりなので、改選のさいには革新的な人物も選任すべきで片よらないようにと申し入れてきたもので、特に今回は議会に提案の前日に杉田町長との交渉をおこなったものの、『申し分のない立派な人物なので…』ときき入れられなかったために、政区労陸議員のなかから反対討論が出て採決名投票にもち込まれて、賛成多数で再任同意となりました。

このほか本別では人権擁護委員に多田彩法氏の推薦を決定、足寄では公平委員に安久津義人氏、監査委員に森西勝夫氏のそれぞれの再任に同意、陸別では固定資産評価審査委員に岩崎義重氏、公平委員に岩佐貴氏の選任にそれぞれ同意しました。

40年目の再会 足寄二十日会で

足寄町内の各団体の長で構成する二十日会（渡辺福会長）では、六日夜、峰平食堂で新任の村上武雄教育長、松村修土木課長所長加納俊正農業改良普及所長の歓迎会をひらきました。

渡辺会長の司会で小林町長の歓迎あいさつにつづいて三氏からそれぞれ着任のあいさつがあったところでハツとビックリしたのが荒井直雄各種事務所長で、いまあいさつをした加納普及所長が自分と同じ中富良町出身で昭和十二年に同町の尋常高等小学校を卒業いらい四十年ぶりの再会となったもので、この夜の歓迎会は同氏の音頭をとっての話題でにぎわいました。

技術に生きる！
テレビ ラジオ レコード ステレオ
ビクター
有限会社
ミネ・デンキ
足寄町三登通り TEL-2642

小学校三年生以上の学習塾
学研全国チェーン教室
学研スタディ学院
教室 川岸新一 講師 光藤恵美
足寄教室 込山デンキ内 T③2112
陸別教室 若葉町 T 2371
自宅 足寄町北五区 T③2809

ニュースを斬る

自民党の勝利

▼…十七日に開票の衆院総選挙は、民社党躍進・公明党支持の無所属のわに坂ち度之氏が、社会党公認共産党推薦の三選現職の山口哲夫氏を破りました。

▼…まもなく公・民の中道勢力が社・共の革新勢力に勝つたのでもあるかのようにみられますが、実際には自民党が公・民を抱き込んで表面には出ないで糸を引いて実を取つたようなもので、天下市長選挙は、民社党推薦の新路市長選挙は、こうでもしなければ革新市政の奪還はできなかつたわけですが、それにしても自民党の勝利ということです

▼…あれほど反自民を旗印にしてきた公明党や民社党でありながら、イザとなれば保守の側に走つてしまう中道路線のアイマイさとモロサをバクロした市長選といえましょう。

▼…このテンでいけば、明年の帯広市長選も旭川市長選も、明後年の道知事選も、自民党側が自民かくしで無所属を装おい、社会党が北産党とくむことになれば、公・民は反自民よりも反共産に力点を置いているので、釧路方式となつて結局は自民党の楽勝、革命勢力となるかもしれません。

▼…こうなれば革新政党もピンからキリまでであるにならないもので、ホンモノの革新とニセモノの革新との区分け力に、釧路市長選は大いに参考になつたのではないでしょうか。